こして[redacted]！

速かに災害復舊

田畑の冠水五百八十八町歩余

忘れてならぬ災害後の傳染予防

去る七月二十一日未明から降り續いた豪雨は縣北地方一帶と縣南の仙北郡とを襲い被害総額二十六億七千万円と推定され、正確な調査が進むにつれて、損害額は、まだまだ増加される見透しである。

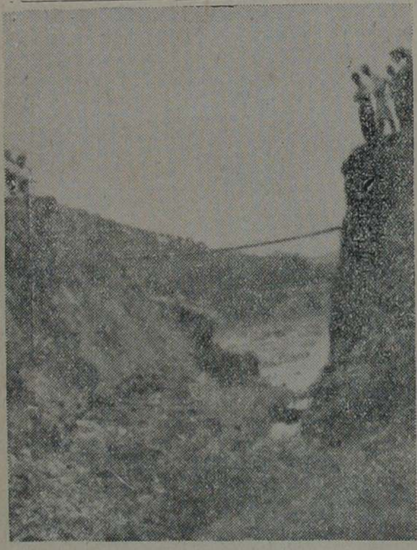
昭和二十二年の水害と奇しくも日を同じくして襲つたこの水魔は二十二年の雨量一六四、八粍に比べて一六五、二粍と言う驚くべきもので、まだ前水害の復旧工事が完成されてない時であつただけに関係者を呆然とせしめ、被害者を大きな悲哀と打撃の奈落えたたき込んだ、天災であり不可抗力であるとわ言いながら縣でも大館市も直に「対策本部」を設置し、その早急な復旧工事と万端の対策に懸命の努力をしている。

大館市の市制施行によって十六、十七、十八日の三日間「祝賀行事」を行うため諸準備が着々進められていた矢先、幸か不幸かこの水禍に見舞れ「祝賀行事」は「水害対策」に変つた訳であるが、市の被害推定額約一億七千万円、それに國や縣道路、河川の決潰、流失等を加えると実に三億五千万円以上を超える莫大な損害を被つた訳であり市関係の損害だけでも本年度の市予算と匹敵するものを一瞬にして流失してしまつた。もともと一ケ月位前から梅雨型の天候が断続的に続いていて稲作も不安な空気に包まれていたため、耐水力は既に限界点に達していたことと、長木川上流地域の山林の濫材乱伐がこれに大きく作用して水量はアツトいう間に増水氾濫し出水量に比して被害が甚大を極めたのも、こういう点からであつた

浸水家屋一千四百四十三戸

被害の状況を見ると、先づ浸水した家屋の数は一千四百四十三戸にのぼり、田畑の冠水が五百八十八町歩、であつた、内訳は別表に掲げた通りであり詳細に亘つては調査未了であり表に掲げたもの以外にも判明してくる可能性がある、市制施行後僅か三ケ月にしてこのような大災害を受けた大館市としては、直に市議会を招集し、議会内には「水害対策委員会」が特別に結成され、市では「対策本部」を設けて復旧対策に万全を期しているが、これと共に國、縣の絶大な援助を得て根本的な治水の施策を樹て、推進すべく不休の努力を続けている、また一方「災害救助法」の適用を受け災害者に対する應急救護をするとともに、災害後に発生すると言われる傳染病予防等にも全力を傾けて、意を注ぎ、災害が他の悪害え派生してゆかないよう万全を期している、

↓上大館駅前（午後三時現在）午後には更に五〇糎上昇



写眞説明　狼穴の國道欠潰現状　→

市長市議会不寝不休の活動

二十一日水害当日市長及議員は急報によって現場各所の状況を具に視察してその惨状を目撃すると共に被害者の激励と應急措置について細い指示を與えると共に、二十三日には急須議会を開いて、水害の現況について市長及主管課長から説明があり、市制祝賀を中止して、渡辺、榎庭（小）林、伊藤、成田、太田部、八神の七氏で水害対策委員会を結成、議会内関係委員と当局と一体となつて対策を進めることとし、翌二十四日には市長と共に太田部、榎庭（小）両氏が縣に現状説明と陳情におもむき、野口議長は二十六日名古屋で開催の全國市議会議長定期総会に出席し大館における今回の水害対策として「大館市水害復旧工事費非常増額措置」について緊急動議案を提出し可決、この会議の会長は全國都市代表として中央官廳に強力に呼びかけることになつた、また同日は第一回の水害対策委員会を開き八神氏が委員長に就任、市長から縣え陳情した報告があり復旧を應急的にすることは勿論、根本的な対策も併せて進めることを申合せた、以後二十七日、三十日、八月一日、六日と水害対策委員会は活潑な活動を続け市長を先頭に廳内の対策本部と共に密接な連絡をとり乍ら不眠不休の態勢にあり、またこの対策は復旧を見るまでは続けられ、全市民が総力をあげて協力してもらいたいことを要望している。

このような市長、議会議員の不寝不休の活動は、被害後時を移さず敢然ととられた眞摯な措置として縣、中央にもその誠意が認められ市民の敬意と感謝を集めている。

大館地区、釈迦内地区の當選委員が決まりました

△釈迦内地区

菅原　勇
日景　竹治
日景　助次
（会長）木村　忠助
泉　徳三郎
木村　万三
佐々木　俊一
三浦　治一
貝森　清松
櫻田　喜一郎
工藤　信久
佐藤　光雄
榎庭　郁三郎
田山　嘉代治
虻川　孫吉
選任委員　畠山　又七郎
同　榎庭　甚吉
同　上村　清左衛門
同　伊藤　市五郎
同　菅原　庄一

△大館地区

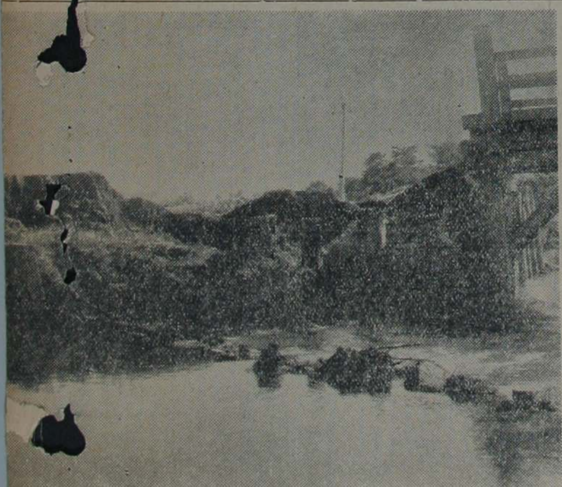
山内　慶吉
山城　雄之助
田中　昌
木村　敬吉
榎園　桑松
越山　米太郎
桜谷　久直
伊藤　三次郎
榎庭　小右衛門
難波　助太郎
榎庭　勇吉
石田　運蔵
菅原　忠助
齋藤　勝治
齋藤　貞蔵
選任委員　石川　勝男
同（会長）中田　直徹
同　長谷山　四郎

必死の防疫陣

有難かつた涙の協力

氾濫つた濁流は堤防を欠潰し、橋梁を破壊し、田畑を流失させた余勢をかつて住宅街に浸入した、その最もひどかつたのは御成町一丁目であり、沼館部落も一面の河川と化した、また高台地域でさえも約一七〇MMの雨量で下水溝渠の不完全も手傳つて、至るところが氾濫し、塵芥汚物が降りから降りえ道路から家の中え流れ込んだ、（洪水の後には傳染病）これは例年の例である、また今年は周期的にも季節的にも赤痢の流行の年であると言はれている、水害直後市長は傳染病の予防について厳命をくだし不幸に更に不幸を招くようなことのないようにと特別の消毒計画をたてるよう特に要請した、直に衛生班は出動し第一次として床上浸水家屋にクレゾールの消毒をし、第二次はクレゾールと生石灰によって床下及溝渠全般の消毒を実施し、特に必要な部分に対しては重点的に徹底的な消毒を開始した、

常設の衛生班では少いので大館保健所が積極的な應援をしてくれ市民に感謝されている、また薬品も分譲し、花岡鉱山病院からもクレゾールを借用し、市内の各薬店からも絶大な好意があり涙ぐましい防疫班の活動であつた縣衛生部からの應援も入り、各機関の協力によつてその実績を示したものである、また噴霧器も個人の備品を借して下さつた篤志家もあつて、心から協力して下さつた皆様に紙面から御礼を述べたいと市当局は語つている、出水は去つた、今のところ全市の力を協せて「法定傳染病」は一人もないことは極めて喜ぶべきことで、今後もお気付の点はどし／＼お知せして下されば良いと思います、傳染病の流行期は今が一番大切です、一人一人が注意して病氣を撲滅しましよう、



市内松木橋の欠潰現場

危い!! 飲料水の使用

大館市では、大館保健所と密接な連絡を保ちながら、浸水家屋床上及床下、約千四百戸を二十二日から、消毒班の数と臨時人夫を増員して、消毒班三班を編成し、浸水地域に徹底的な消毒を実施したが特に傳染病の集團発生を防止するため同地域と三回に亘つて消毒を継続中である、八月一日からは第三回目の消毒に入つており、各町内の協力で町内の汚れはムシロ、等に入れてトラックで運搬しその第一回の作業も完了したが、下水溝の修理及泥上げは目下作業中でこれが終次第第二回目の運搬を始める予定である、尚全戸の飲料水は水害のため不適当なものが多いので全戸に征露丸の配分計画も出来ていて現物は入荷次第配分する、近く縣衛生部と連絡の上、腸チフス、パラチフスの予防接種を再び実施するがこの方向にも全市民の協力が望まれている、

災害見込額集計表

一、罹災世帯損害見積額　五五、九五〇、〇〇〇円
二、公共施設損害見積額　一二、〇二四、二〇〇円
三、農林関係損害見積額（田、畑、農道、水路）　六五、一三六、四二〇円
四、田地減収見積額　三三、〇四七、六六五円
五、畑地減収見積額　一一、一六〇、〇〇〇円
六、その他損害見積額　一、五四五、〇〇〇円
計　七七、八六三、二八五円

公共施設水害状況

一、道路の部（三十一ケ所）
沼館線、（道路欠潰流失）　延長八〇米、巾三米
六七号、（コンクリート土側溝）　延長一〇九米、高一米八〇
九号、（道路石垣欠潰）　延長三二一米、高一米四〇
一〇〇〇号（道路欠潰）　延長三〇米、高五米
餅人留（道路欠潰）　延長九〇米、巾三米
餅人留（石垣欠潰）　延長一五米、高二米
小山上線（道路欠潰）　延長六米、巾一〇米高三米
小釈迦内線（道路欠潰）　延長一〇米、高一米五〇
松木大館線（道路欠潰）　延長八〇米、巾三米
柏田線（道路欠潰）　延長一八〇米、巾三米五〇
一四号線（道路欠潰）　延長八米五〇、高〇、五〇米
沼館線（道路欠潰）　延長一米、巾一米
八一号線（道路欠潰）　延長五〇米、巾六米、高一米
暗渠一ケ所
七号線（道路に間流失）　延長三〇〇米、巾八米
松木大館線（道路流失）　流失三〇〇米、巾三米
沼館線（道路流失）　流失三〇〇米、巾三米
九九号線（道路流失）　流失八〇〇米、巾三米
一〇三号線（道路流失）　〃　三〇〇米、巾四米
餅人留（道路流失）